歴史を訪ね、郷土を愛する

新得町郷土研究会長　髙　橋　昭　吾

新得町の歴史的資料の調査とその資料蒐集と保存及び伝承のための事業を行うことを目的とする新得町郷土研究会が昭和五十六（一九八一）年に発足して四十年の節目を迎えました。

新得町内における原野の開墾や、その後の開拓に汗した先人の苦労に思いをはせるとき、当時の使い残された農機具類などを単に保存するにとどまらず、何らかの方法（動態の形など）で展示して、その苦労を知ってもらう方策をとることが、郷土史を研究する我々の使命ではないのかと考えます。

平成二十七年に郷土資料収蔵庫「ふるさと館」が上佐幌に開設されましたが、展示学習施設としては、まだまだ十分ではありません。さらなる充実を図っていく必要があります。

私事ではありますが、私の先祖は明治三十二（一八九九）年に村山和十郎と共に入植した十四戸（和十郎は清水町に入植したので新得には十三戸）の一戸でした。祖父からは「十二歳で北海道の開拓に父と共に来たんだぞ」と何度も聞かされていましたが、子供のころは何とも思っていませんでした。

平成十八年一月に入会した私は、貴重な資料（史料）を調査・点検・保存・収蔵・展示等をしてみて、初めて歴史の重さ（開拓の厳しさ等）を知りました。

もう少し祖父から詳しい話を聞いておけばと思った時には手遅れになっており、深く反省しています。

これからも新得町の歴史を訪ね、郷土を愛することが、新得町の未来を輝かせ、新しい町づくりに繋がる事を確信しております。

郷土研究会の発足四十周年の記念誌を発行するにあたり、新得町、新得町教育委員会のご理解と多大なるご支援をいただきました事に感謝し、ご協力をいただきました関係者各位に敬意を表し、発刊のことばといたします。